

信頼している大人に見守られるなかで遊びに没頭できます。



しだいに大人から離れ、子ども同士で活発に活動するようになります。子ども集団で群れて遊ぶことを好みます。



特定の友人と親しい関係を形成し、時には孤独を好むこともあります。



幼児期

児童期

思春期

◎子どもの発達は、行きつ戻りつの繰り返しを経ながら進行していきます。

出典：『放課後児童クラブ運営指針解説書』22～29ページをもとに岡山県教育庁生涯学習課が作成（こども家庭庁／令和7年3月28日）

資料1の② 子どもの成長と家族の関わり

大人の見守りの中で遊んでいた幼児期と異なり、児童期になると、子ども集団の遊びのなかで様々な経験をします。その中で子ども同士のトラブルも起きてくるようになります。子どもが自分で解決できるように応援するとともに、心配な出来事が起こったら学校に相談し、家庭と学校が連携して子どもを育てていくことが大切です。

各発達段階における特徴

低学年

- ◇ いろいろなことに興味や関心をもち、好奇心が旺盛で、何でも自分でやってみようとしています。
- ◇ 苦手なこと、やりたくないことの中にも、やらなければならないことがあると学びます。

中学年

- ◇ 仲間と一緒に遊ぶことを好み、教師や保護者より友達を大切に始めます。「ギャングエイジ」とも言われます。
- ◇ やればできるという自信をもつことで、何事にも進んで取り組むようになります。

高学年

- ◇ 集団の中で、リーダーシップを発揮したり、協力して活動したりすることで、社会性を身に付けます。
- ◇ 友達との信頼を深め、絆を強めていきます。

家庭では、子供と触れ合う時間を大切に、家族全員で子どもの変化を感じ取ってください。いじめが起きている場合は、必ず子供の言動に変化があります。もし、いつもと様子が違うなど「いじめ」のサインに気付いたら、家庭だけで抱え込まずに、まず学校に相談してください。

いじめられている子供のサイン例

朝起きてこない。布団からなかなか出てこない。

学校や友達の話が減る。

学校で使う物や持ち物がなくなったり、こわれたりしている。

朝になると体の具合が悪いと言い、学校を休みたがる。



服がよごれていたり、やぶれていたりする。

自分の部屋に閉じこもる時間が増える。

スマートフォンやメールの着信音におびえる。

家からお金を持ち出ししたり、必要以上のお金をほしがったりする。

親しい友達が遊びに来ない、遊びに行かない。

具体的な関わり方の例

子供への関わり

- ・子供の話に耳を傾け、親としての気持ちや考えを伝えましょう。
- ・子供が安心して甘えることのできる関係をつくりましょう。
- ・子供のペースに合わせ、「待つこと」を心がけましょう。
- ・自分で目標（目当て）を決めさせ、計画的に実行させましょう。
- ・共に活動する中で、言葉だけでなく行動で伝えましょう。
- ・やってよいことと悪いことの区別を、はっきりと示しましょう。

習慣づくり

- ・規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう。
- ・気持ちのよい挨拶や正しい言葉遣いを身に付けさせましょう。
- ・洗顔、歯みがき、爪切り、ハンカチの携行等、身だしなみや身の回りの整理整頓、清掃の習慣を身に付けさせましょう。
- ・家庭内での役割を決め、できたときは感謝の気持ちを伝えましょう。
- ・物や金銭の大切さに気付かせ、計画的な使い方を考えさせましょう。
- ・決まった時間と場所で学習に取り組ませ、テレビ、ゲーム、インターネット等も、利用する時間・場所等の約束をあらかじめ決めましょう。

仲間づくり

- ・地域の行事に積極的に参加させ、様々な人々と交流させましょう。
- ・屋外でのびのびと遊ばせましょう。

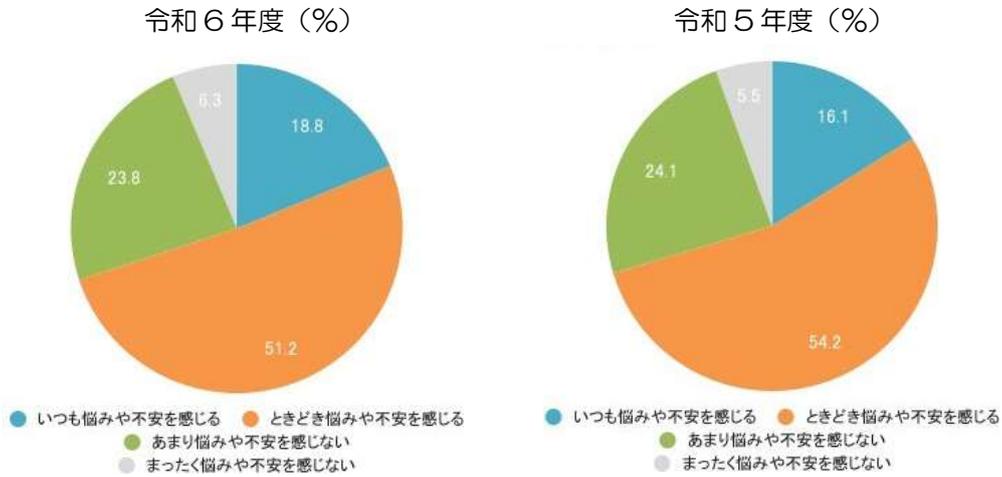


出典：『小学生の理解のために』（富山県教育委員会／令和7年12月）
<https://www.pref.toyama.jp/documents/36237/r7kaisyougakuseirikai.pdf>

①子育ての悩みや不安の程度

⑫「あなたは現在子育てをしていて、悩みや不安をどの程度感じていますか。(単一回答)」

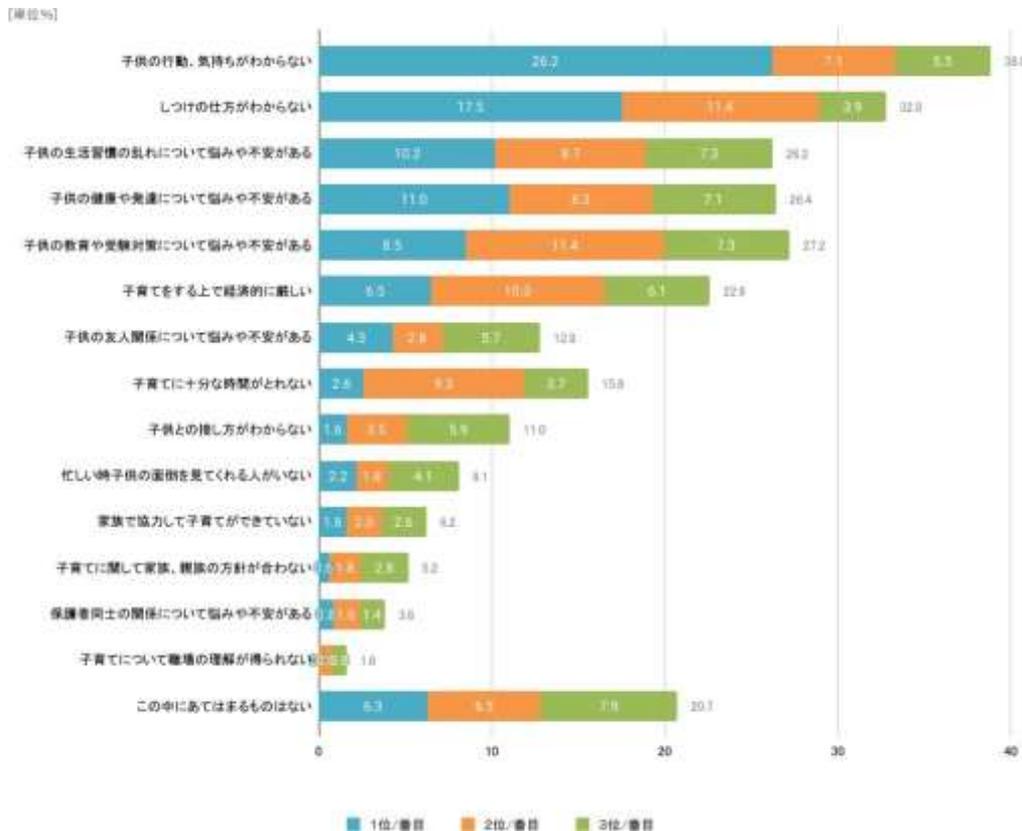
※スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子供がいる」を選択した者を対象にしている (n=703)



②子育てや家庭教育に関する不安や悩みの内容と優先順位

⑬「ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みのある項目について、特にあてはまる項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)」

※①の質問において「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象にしている (n=492)



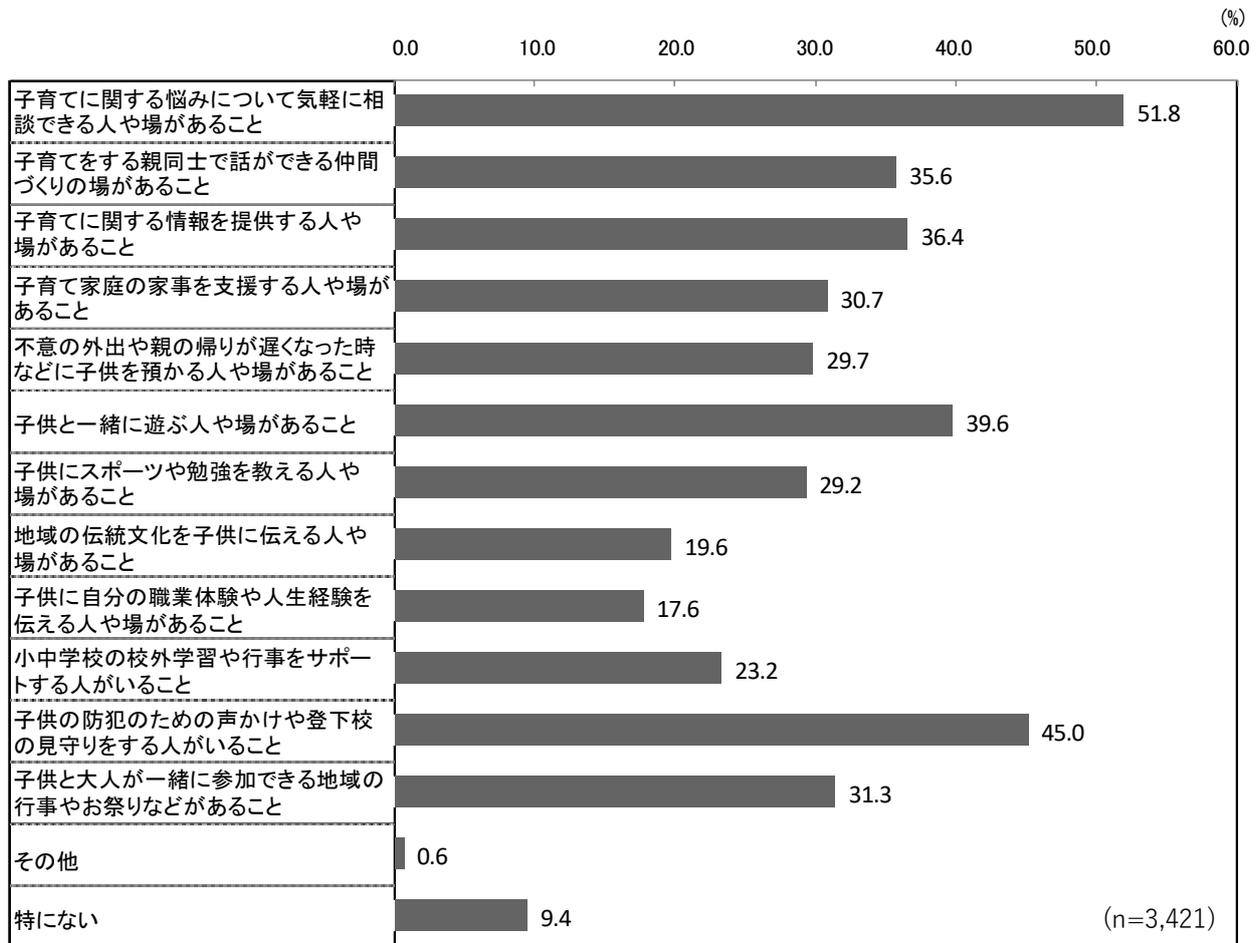
出典：『令和6年度「家庭教育支援推進のための調査研究（家庭教育についての保護者へのアンケート調査）」事業』
報告書より抜粋（文部科学省/令和6年9月）

https://www.mext.go.jp/content/20250130-mxt_chisui02-000038952_1.pdf

地域で子育てを支えるために重要なことは、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が51.8%と最も高く、次いで「子供の防犯のための声かけや登下校の見守りをする人がいること」が45.0%、「子供と一緒に遊ぶ人や場があること」が39.6%となっている。

※0～18歳の子供を持つ20～54歳の父母3,421人（男性1,549人、女性1,872人）を対象にした調査

図表 3-48 地域で子育てを支えるために重要なこと(複数回答)



出典：『令和2年度「家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査～報告書」(令和3年2月 株式会社インテージリサーチ)』
より抜粋(文部科学省/令和3年2月)

https://www.mext.go.jp/content/20210301-mex_chisui02-000098302_1.pdf